

# 職業奉仕月間に思う

A Wake or Revival by R. I. President Charles C. Keller

ロータリアン誌10月号より

過去40年間以上、R Iレベルでの職業奉仕委員会は1回も開かれたことがなかった。全く信じがたいことである。

どうしてそうなったのか。職業奉仕は4大奉仕部門の一つであり、ロータリーをロータリーたらしめているものであり、各会員の職業分類と不可分のものである。ロータリーの初期においては、商業道徳や事業倫理の徹底向上に関する取り決めがこの職業奉仕のなかから数多く生み出されている。ロータリアンの多くは職業奉仕をロータリーの欠くべからざる要素であると信じてきたし、いまでもそう信じているはずである。

だが現実には、きわめてまれな例外を除いて、この50年間私たちがクラブで、地区で、そして国際的なレベルで、職業奉仕をなおざりにしてきたことは否定できないと思う。「四つのテスト」の額を飾ったり、地元の学校で就職案内会などやって事足りれりとしてきたのが現実である。

「職業奉仕はクラブとしてやるべきことではなく、各会員が個人的にやるべきことである」ということを、これまで何回となく聞かされてきた。なんとも便利な言い訳である。

だが職業奉仕に新しい生命を吹きこもうと真

国際ロータリー会長 チャールズ C. ケラー

剣に考えている、誠実なクラブ会長、地区ガバナーも少なくはない。職業奉仕についてロータリーの綱領の第2に次のようにはっきりと書いてある。

「実業および専門職業の道徳的水準を高めること：あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること：そしてロータリアン各自が職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること：」

(1986年版邦訳手続要覧より)

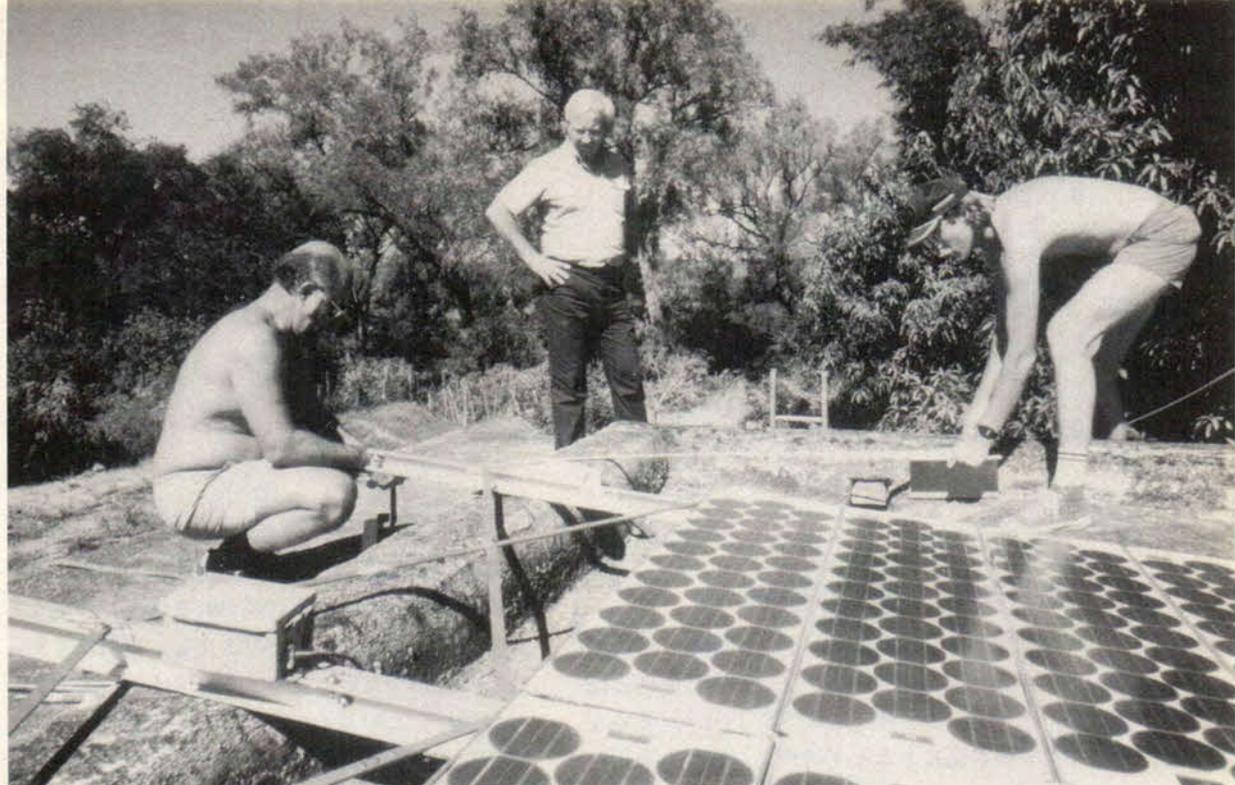
では現実的にどうしたら、私たちは個人としてまたクラブとして、このすばらしい理想を実践することができるのだろうか。

私たちはいま職業奉仕を再検討、再評価する時期にきていると思う。職業奉仕はいまでも必要なのだろうか、それとも時代おくれのものとなってしまったのだろうか。

倫理的に必要な事柄は、労働組合、同業組合、消費者団体、行政などにすべて盛り込まれ、取り入れられていて、個人的に任意に努力する必要はなくなってしまったのだろうか。

この種の疑問に対する答は明白に出せると思う。

会社、職場、商店、あるいは政治、スポーツなど社会のあらゆる分野で道徳の低下を伝える



米国カリフォルニア州クレスサント・カナダRCの会員で、エンジニアのジョン・リンクは、自分の技術を生かして、メキシコのエル・フユレット村の診療所の電源用にと太陽電池を製作した

ニュースが洪水のように全世界を流れている。この事実だけでも、正直と公正を一つの規準として受けとめているすべての人々が、関心を新たにしておき、取り組む必要があることを明白に示している。

そこで、私は今年職業奉仕委員会を設け、去る8月中旬この委員会を招集した。委員長には米国テネシー州オーク・リッジRCの会員で、元RI副会長のウィリアムT. サージェント、委員にはロータリーの各地域を代表する卓越したロータリアン7人が就任している。

この委員会は相当思いきった勧告案をまとめて来る11月のRI理事会にそれを提出することになっている。同勧告案のなかには、職業奉仕の発展拡大は可能であり、しかもその重要性はかつてないほど増大しているとのべたくだりもある。

同委員会はまた職業奉仕の定義を慎重に書きなおす必要があると示唆し、職業奉仕関連のクラブ内諸委員会の再編成、さらにまた職業奉仕関連のロータリー文献の全面的改訂などを提案している。「最もよく奉仕する者、最も多く報

いられる」というおなじみのモットーについても、これが誤解される場合があまりにも多いと指摘して、その廃止を強く要望し、真にロータリーを代表するモットーとして「超我の奉仕」のみを残すよう迫っている。

そのほかこの勧告案はまた、職業コンタクト・グループ、ロータリー財団職業奉仕奨学金などの新設その他、斬新なアイデアを提起している。この勧告案は私がこれまで読んだロータリー関係の書類のなかでも、最も感動的なものの一つである。

RI理事会はこの勧告案を徹底的に審議検討する。もしそのなかの重要な案件がいくつか採択されることになるとロータリーの職業奉仕は新時代を迎えることになるだろう。ロータリーの根幹をなすこの職業奉仕について、諸君のご意見をなんなりとロータリアン誌編集長へ投稿して下さい。そうしていただくと、理事会としても職業奉仕の現状と今後の方向を検討するうえで大いに参考となる。職業奉仕委員会が高らかに鳴らしたこのラッパに対し諸君の考えをぜひきかせて欲しい。(RI指定記事)

# 学生の 就職指導も職業奉仕

Vocational Service Month Feature...Clubs in Action

## 学生主体の就職ゼミを実施

米国カリフォルニア州ロサンゼルスRCは、アメリカ・ボランティアスという奉仕団体と協力、ミダス・タッチ (MIDAS Touch) というギリシヤ神話にちなんだ特別プログラムを行っています。

1985年に始められたこのプログラムは、低所得層の家庭の青少年のためのもので、80人以上のロータリアンと地元の実業家そして100人以上の青少年が参加しています。「80年代の有望職業」「自分で商売を始めるには」「就職口探しのABC」その他就職を控えた学生の関心を喚びそうなテーマをもとにゼミを開き、ロータリアンや実業家がパネリストを務めます。そして参加学生1人1人とマン・ツー・マンで話し合い、助言する時間を設けていることが大きな特色です。

このゼミは3日間にわたって行われます。そして各自の希望するテーマ毎に小グループに別れ、そのテーマについての各自の考えなり計画をまとめます。各グループにはボランティアのカウンセラーが1人ずつつき、相談に応じ助言します。こうしてグループ単位の意見なり計画がまとまると、これをロータリアンで構成され

た審査員団に提出します。比較検討の結果、優れた意見や計画には賞が贈られます。このやり方は、参加学生の興味をひき出し、自信をもたせることにつながっています。もう一つの大きな特色は、このゼミに参加した学生同士の間仲間意識が生まれることです。このゼミの主演はあくまで学生であり、この体験は彼らにとって忘れがたい思い出となっているようです。

ロサンゼルス・アメリカ・ボランティアスの会長でロータリアンのボブ・ブランド氏は「このゼミを終えて終了証を受けとときの学生の目には、それまでとはちがった輝きや宿っている。みな、生き生きとして何か新しいものをつかんだような感じがする」と語っています。

このミダス・タッチ・ゼミは3日間だけですがすべてが終わってしまうわけではありません。1年のフォロー・アップ期間があり、この期間中各学生は、たとえば夏休みなどを利用して自分のたてた計画を実行してみることを奨励され、実行の節目ごとに進行状況報告をロータリアンその他で構成される指導グループに提出し、検討を受けることになっています。

ボランティアス・アメリカは、このミダス・タッチ方式を1986～87年度の全米プロジェクトに採用し、成績がよいので、全米10都市で実施

今月は職業奉仕月間です。自分の職業を通じて、世のため人のためにつくすという、職業奉仕にはさまざまな方法があります。今回はとくに、会員各自の職業を青少年の就職のために役立させている実例を三つ紹介します



米国カリフォルニア州ロサンゼルスRCのクレイ・ヤング会員は、ガヤキルの職業技能学校にボランティアとして出張、自分の技術を生かして生徒にグラフィック・アートの技術を伝授している

中です。

### 学生の職場訪問を奨励

米国ネバダ州ラスベガス市内のRC会員は、学生が各自の就職志望先について認識を深めることができるようにとの親心から、キャリア・アウェアネス(Career Awareness)というプログラムを実施しています。これは元来米国ボーイスカウト連盟がつくったプログラムで、学生が自分にふさわしい仕事を探することができるよう、さまざまな職業や技能、あるいは就職に必要な資格要件などについて専門家に講師として話をしてもらおうことを目的としたものです。

そのほか、専門職業を希望する学生には、直接その種の事務所や仕事場を訪問し、実際にその仕事を体験する機会を与えています。

### 学生と会員がペアで就職相談

ハワイのカウアイ島の四つのロータリークラブは、島内の高校生が卒業後社会に入っていく

ときに役立つようにと、1985年にパートナー・プロジェクトという活動を始めました。

これは通常ロータリアンと学生が1人ずつペアを組んで行われています。まずクラブが二種類の書式を用意し、一つを学生に一つを会員に配布します。学生は113の職種を掲載したリストのなかから、自分の希望するものを選びます。

一方会員は、自分の専門とする技術・知識の分野を記入します。この二つの書式はボーイスカウトの協力で、コンピュータにかけられ、希望先と専門分野が合致した学生と会員とのペアが組まれます。こうしてできたペア同士で、就職のこと、それに必要な知識や技術などについて話し合い相談するわけです。

ロータリークラブ側ではこのほか、就職に役立つ資料たとえば、就職面接のビデオを学生に貸し出し、あるいは就職希望の職場を直接訪問できるように手配もします。

(RI指定記事)